
銀色の翼

市野川 梓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀色の翼

【Nコード】

N8973Z

【作者名】

市野川 梓

【あらすじ】

惑星同士での戦争が日常化した時代に生きる人と人とが生み出す翼という幻影…
人々は再び平和な日々を取り戻す事ができるのか

機械の翼

あれから30年という月日がたった。この時代において「30年」と言う月日は旧時代にとつて一世紀同等の時だ。惑星同士の宇宙対戦が幾度となく勃発し、星々はそれに追われている。地球と言う星は壊滅状態に陥っていた。決して地球の軍事力や技術が遅れている訳ではなく、ある一つの星が強すぎたのだ。

その星を「ゼアール星」と言う。ゼアール星と同盟を組む星は増え続け、今や銀河系のほとんどがゼアール星連邦軍だ。ゼアール軍は100億という軍勢で地球に攻めてきた。連邦軍に対抗する地球・宇宙警察軍は10億と言う1/10の軍勢で挑んだ。

第五次宇宙大戦に。

この戦いの犠牲は計り知れない。ゼアール軍は機械兵で構成されている。ゼアール兵は殆んどが肉体の半分以上が機械に蝕まれた機械人間アヒューマンなのである。身体に鉄を流し込み、強靱な肉体を手に入れた馬鹿な人間は頭がイカれている。感情がないのだ。嬉しい、悲しい、楽しい、そして苦しみ。あえて感情があると言うならば殺意だけである。逆に地球・宇宙警察軍、通称「EARTH軍」に機械人間はいない。感情を持つ人間である。∴表向きはそうなっていた。しかし世界政府がひた隠し続けている世界機密にはEARTH軍にもただ一人だけ機械人間が存在すると言われている。民間にはもちろん知られていない。日本人でまだ18歳という若い人間である

40XX年4月20日

今日は広瀬佑助の18歳の誕生日である。たった一人で祝っていた。家族をゼアールに殺され友達もみんな徴兵へ行ってしまった。だから身内なんていなかった。少年は幼少期から親に宇宙警察について教育され、今や宇宙警察の最年少の暗殺部隊に所属している。

決して運動能力が優れているわけでもない。昔から小柄な身体だった。何故ゼアールの魔の手から逃れることが出来たのか：それは彼が地球にいる唯一の機械人間だったからであろう。体右半分が機械である。

紛争に巻き込まれて右半分が動かなくなってしまった。父が素晴らしい功績を納めていたためか、世界政府から生え抜きの医者が派遣され大手術の後、この身体になった。わすが九歳の頃の話である。今は宇宙ステーションで暗殺部隊をしている。本人すらよく知らないが暗殺部隊は四人しかいないらしい。佑助は自分が優れているなんて思ったことがない。ましては普通の人間でいたかった。しかし家族の復讐に燃える佑助にとってこれ以上にならない上手い話だった。EARTH軍は7部隊に分かれている。それぞれの部隊に隊長がいて暗殺部隊の人間は全員隊長である。佑助は5番隊の隊長を任されている。あまり知られていないが、第8番隊が特別暗殺部隊である。佑助が機械人間だと知っているのはEARTH軍の隊長、世界政府の上層部の人間ぐらいしかない。

状況は悪化している。EARTH軍の最終防衛ラインがゼアール軍をなんとか地球への侵入を防いでいるが、もうそれも一ヶ月と持ちそうにない。まだ地球には残された人々がいる。緊急措置として簡易人工星「イージス星」に避難させている最中なのだ。

暗殺の翼

PM7:15 宇宙ステーションにて

『505号室 第5番隊隊長 広瀬佑助』

とモニタリングされた部屋で佑助は暮らしている。EARTH軍にとって暗殺部隊「Super Nova」のメンバーは宝である。故に身の安全は保証されている。あくまで基地内においてであるが。

暗殺部隊Super Novaの仕事は名の通り暗殺である。宿敵ゼアールの元帥を殺すのが最終目的だ。今回の任務はゼアールの中核部隊長暗殺を命じられているが成功確率は極めて0に近い。Super Novaは今まで1000以上の人を暗殺してきた。そんなベテランでも成功確率が0.009%しかないのだ。命令は4月21日AM10:00に宇宙ステーションを出発である。

突然サイレンが部屋中に鳴り響き静寂を破った。一瞬緊張が走る。

「侵入者か！」

折角の誕生日パーティーが台無しである。そつとケーキに刺さっているロウソクの火を消した。

『侵入者ハツケン！侵入者ハツケン！タダチニ5番隊隊長ハ侵入者ハイジヨニツトメロ！隊員ハゼンイン配置ニツクヨウニ！』

不器用なアナウンスが部屋にこぼれてきた。

「へいへい」

そう言つて佑助は壁に設置された宇宙ステーションの地図を見ると動いている赤い点を見つけた。

宇宙ステーション内への侵入者の排除は暗殺部隊の役目である。

自動ドアが開いて部屋を出た。するとすぐ横のシャッターが降りて道を塞いでしまった。佑助は廊下の脇についている小さな鉄板の上に乗った。すると佑助を乗せた鉄板は動き始めた。時速80キロはでている。ここ宇宙ステーション通称、守護者達の基地（ガーデ

イアンズコロニー（以下GC）は輪の形をしている。輪の中心部はGCの心臓部である指示棟となっている。何万という人を収容でき、とてもじゃないが歩いて移動はできない。だからこうした移動手段がある。

今回の侵入者のパーソナルレベルは3。結構高い数値だ。パーソナルレベルは最高で5。いままで存在が確認されていない程の力の持ち主であろう。最弱の1でも生命力は普通の人間の10倍はあるだろう。

侵入者はもちろん機械人間であると推測でき油断はできない。

佑助は侵入者を見つけるなり、侵入者目掛けて小型ナイフを投げた。侵入者はそれに気付きナイフをかわそうとするがもう手遅れだった。侵入者である機械人間はその場でバラバラになり鉄の混じった血が辺りに散らばった。そのとたん何処からわいたのか掃除ロボットが死体を綺麗に片付け始めた。

すると廊下を赤く染めていた緊急ランプが消え再び静かなGCへ戻った。

ガラス越しに宇宙を見ると地球の近くで戦闘が行われているをはっきりと確認することができる。この基地からも大勢の兵が駆り出されている。また戻ってこれるのはよくて10人くらいしか居ないのだろう。

佑助が物思いに耽っていると、肩を叩かれた。振り返るとそこには第3番隊隊長 武蔵 大和の姿があった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8973z/>

銀色の翼

2011年12月28日04時48分発行